

会報

京都マイコン研究会

第 116 号

1997年3月1日発行

発行人 圓口佳昭

事務局 京都府八幡市八幡城之内20
TEL/FAX 075-981-0063, 982-8064
nomasuda@inbox.kyoto-inet.or.jp

トピックス or ニュース

「チェーンメールは「無限連鎖メール」」

加藤 純一

先日日本海重油流出に関して、日本海海産物の購入、旅行を中止しないで欲しい等、メールがあり、その後、チェーンメール付いての連絡が来ました。

(幸い、文章があまりにも長いので、時間が無く全文読んでからとと思っている内に) 以下の様です。そうなるであろう事は、考えられますが、知りませんでした。

皆さんは、知ってられますか。

*◎Eudoraのホームページより

【Q. 2. 5】チェーンメールとは

- ・チェーンメールとはどのようなものですか？
- ・どうしてチェーンメールは悪いことなのですか？

【A. 2. 5】

チェーンメールは「無限連鎖メール」や「幸福/不幸の手紙」のようなものと考えて下さい。どんどん転送して下さいとか、できるだけ多くの人にお知らせ下さいという内容のメールで、次々に発信(転送)する人が増えていくようなメールの事です。具体的には、「輸血血液の募集」というものや、次の設問で解説する非常に悪質な“Good Times Virus”, などが過去に流行して問題となりました。

このチェーンメールは、たとえ「善意のお願い」や「正当な署名運動」の類であっても、それがチェーンメール形式である限りエチケットに反する行為であることと見なすのが一般的です。その理由はいろいろありますが、不特定多数を巻き込み、同じメールを何通も受け取る人も出てきますし、無意味にネットワーク資源(メールサーバ、回線、管理者の労力など)を浪費し、情報が一人歩きして收拾がつかなくなる、という点が問題点としてあげられます。チェーンメールの扱いについては以下の点に注意を払いましょう。

チェーンメールを受け取った側への注意

チェーンメールの被害を最小限にとどめる方法として、あなたが誰にも転送しない事が非常に重要です。仮に転送するのが妥当と考えた場合でも、あなたの責任の元に転送することを忘れないで下さい。以下に注意すべき点を箇条書きにします。

合宿報告

1997年2月1日 (pm. 3:00)

場所 大山崎ふるさとセンター
参加者氏名 岩井、若井、若林、圓口、増田、吉川、河原、中辻、

内容 編集部会 8名

次回例会

日時 97年3月1日
場所 大山崎ふるさとセンター
内容 インターネット部会開催
報告・他

吉川雅啓氏
新規電子メールアドレス

- ・まず内容を疑う。信頼できない場合は転送しない。特に無記名、無期限、オリジナルの発信日不明のものに関しては転送しない。
- ・転送する前に、ネットニュースやBBS, WWW等や、転送元に情報の確認を行う。転送してから確認するのは取り返しがつかない。
- ・転送した責任/経過を残すために、本文中に転送の経路を残す。
- ・むやみに転送しない。良く考えて必要と感じた人へのみ転送する。
- ・ネットワーク管理者や、頻繁にメールを貰う人間はすでに知っている可能性が高いので注意する。同じメールを20通以上も貰う人の立場も考えましょう。
- ・不用意に転送されて来たと感じたら、転送元に注意する。さらに、転送元の転送元や、転送元の転送先(Cc:アドレス)にも注意するよう呼びかける。

一度広がったチェーンメールは、その後に嘘であることが判明したり、状況が変わった場合に収束させるのが困難ですが、逆のルートで注意を呼びかければ、撲滅できます。広がる速度に負けないように、疑問を感じたら、すぐに「待った」のメールを送りましょう。遅れると、単にチェーンメールを後追いつする、ある種のチェーンメール(?)になるので、場合によっては止めた方が良いかもしれません。

Visual Basic 部会

N.Masuda

久しく皆さんに報告します。最近志望者があり、再開するにあたり今の状況をご報告いたします。

MS-Visual Basicの部会をこの会で初めてから、かれこれ3~4年になります。

講習会も7~8回開催したと思いますが皆さんの腕前は如何になりましたでしょうか？

MS-WindowsのOSが発売されてからディスプレイや画面表示が繊細になりグラフィカルユーザーインターフェース

(GUI)が確立されて、ビジュアルに表示されるようになりました。そこで開発されたのがWindowsのOS上でコントロール出来る開発言語として発売されたのがMS-Visual Basicなのです。現在発売されているのはWindows95用のv. 4.0ですがもうすぐバージョンが変わるようです。

その名の通りビジュアルにプログラミングが出来てそれぞれの機能に対応した部品や細部の設定がいちいちコード入力しなくても最初から持ち合わせているため、開発時間が今までのプログラミングに要した時間の数十倍の早さで開発できるというものです。操作は、いたって簡単で初心者でも十分勉強すれば使いこなせる言語ソフトです。

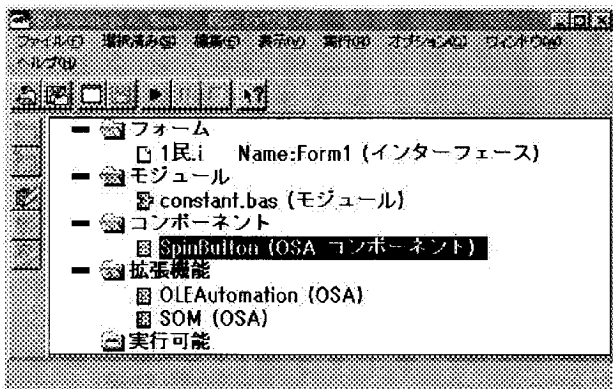
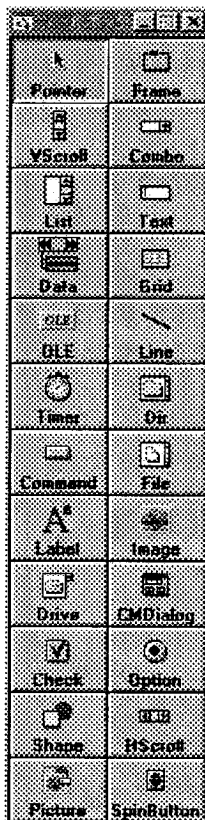
今回は、IBMから最近発売された「IBM VisualAge for Basic v.1」をご紹介します。

アイコンをクリックし起動すればMS-Visual Basicと同じようなツールボックス・フォーム・デザインボックスのウィンドウが開きます。ツールボックスのアイコンの下にそのテキストが付けられている。(アイコンだけでもテキストだけでも設定可能。)

MS-Visual Basicの、フォームでのボックスのサイズは各バーの領域も含めてボックスサイズとしたのに対して。これは、ボックスの利用する内側つまり、部品の設置や表示出来る領域だけをサイズハンドルでコントロール出来るようになっています。

デザインのボックスでは、フォーム・モジュール・コンポーネント・拡張機能・実行可能のフォルダーが表示され、フォームのフォルダー階層の下にインターフェース名が表示される。拡張機能のフォルダーの階層下にOLE Automation (OSA) とSOM (OSA) が表示されている。このデザインボックスでプログラム作成のためのコントロールを設定する。

下図にこれらのボックス類を表示します。



IBM

VISUALAGE FOR BASIC

INSTALL.TXT

導入時、VisualAge for Basic は /usr/lpp/vabasic/ 以下の readmeファイルを作成します。

INSTALL.TXT 導入情報 (このファイル)
NOTICES.TXT 著作権情報
README.LST readme ファイル
VERSION1.TXT 制限事項など

の情報は

導入時、VisualAge for Basic は /usr/lpp/vabasic/ SERVER 以下のファイルとディレクトリーを作成します。

CONFIG.VW	config サブディレクトリーのルート・ディレクトリー
db2spla	VisualAge for Basic 提供の DLL
libdb2.o	非アーカイブの libdb2.a
libgenAdapt.a	サーバー用リモート・ビルド・デバッグ・ライブラリー
libgenAdapt2.a	サーバー用実行時ライブラリー
stpsrv	サーバー用リモート・ビルド・ファイル
spspstub	サーバー用スタート・プロシージャールスタブ
udfxstub	サーバー用ユーザー定義関数スタブ
bas1	クライアント用コマンド行 BASIC インタープリター
spbuild	クライアント用コマンド行スタート・プロシージャール・ビルダー
udfbuild	クライアント用コマンド行ユーザー定義関数ビルダー
vabasicx	サーバー用インクルード・ファイル
/include	サーバー用インクルード・ファイル
vwdir	構成ファイル
/config	リモート・デバッグ用のビットマップ
/bitmaps	構成ファイル
/biudf	financial ユーザー定義関数
/bin	サーバー導入時に使用されるディレクトリー
/msg/Ja_JP	日本語文字列処理ライブラリー・ファイルのディレクトリー
/msg/ja_JP	日本語文字列処理ライブラリー・ファイルのディレクトリー
/lib/Ja_JP	日本語メッセージ・カタログ・ファイルのディレクトリー
/lib/ja_JP	日本語メッセージ・カタログ・ファイルのディレクトリー
/Ja_JP/config	instpref.ini 構成ファイルのディレクトリー
/ja_JP/config	instpref.ini 構成ファイルのディレクトリー
makeserver	VisualAge for Basic サーバーの導入コマンド
removeserver	VisualAge for Basic サーバーの除去コマンド

VisualAge for Basic ハードウェアおよびソフトウェア要件

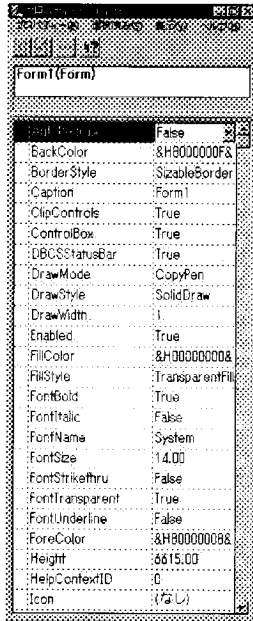
OS/2 クライアントの要件

ハードウェア要件

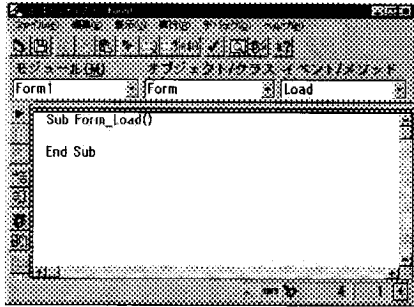
- 486 プロセッサー (またはそれ以上)
- 26 MB RAM
- 50 MB 以上の空き容量をもつハード・ディスク

Visual Basic 部会

左図プロパティボックスもMS-VB4のプロパティとほとんど同じで設定項目でマウスをクリックすればプルダウンメニューが現われ選択肢を選ぶ。



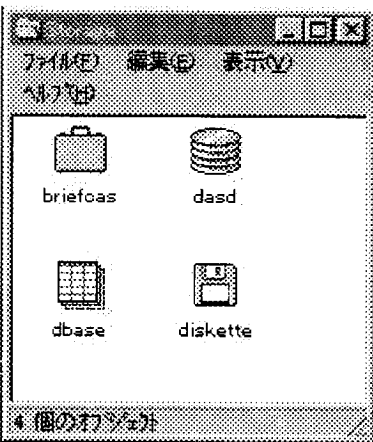
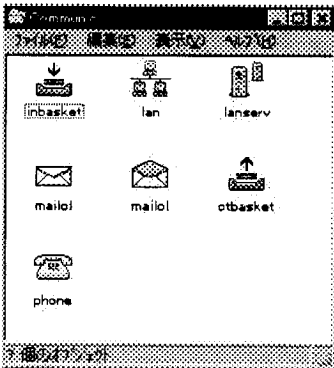
フォーム上のツールにマウスを合わせダブルクリックすればコードを入力するウィンドウが現われる。これもMS-VB4と同じであるがコードエディターというボックス名で、モジュール・オブジェクト/クラス・イベント/メソッドというリストボックスがコード入力画面上に配置され、また、グローバル関数リストもこのボックスの上部アイコンをクリックすればコードエディター内に表示してくれるのは助かる機能です。



マルチドキュメントインタープリター (MDI) フォームの作成も同じように設定できる。以上のことから IBM VisualAge for Basic は MS-VB4 より利用する側にとってはより

便利に早くプログラミング出来るより快適な環境を提供していた

だいたような気がしました。



ソフトウェア要件

- OS/2 バージョン 3.0 (またはそれ以上)
- VisualAge for Basic を「DB2 サポート」オプション付きで導入するのであれば、NetBIOS か TCP/IP コミュニケーションを使った DB2 SDK/2 バージョン 2.1 またはそれ以降も導入する必要があります。DB2 通信の要件については、以下を参照してください。http://www.software.ibm.com/data/db2/db2v2.html (英語版の情報のため、必ずしも日本語版に適用しない場合があります。)
- OpenDoc パーツを使用するつもりであれば、OS/2 Fixpack 17 を導入しなければなりません。OpenDoc および Fixpack 17 は、http://www.software.ibm.com/clubopendoc からダウンロードできます。(英語版の情報のため、必ずしも日本語版に適用しない場合があります。)
- OS/2 クライアントを AIX サーバーに接続して、VisualAge for Basic リモート・デバッグ機能を使って AIX サーバー上のストアード・プロシージャおよびユーザー定義関数をデバッグする場合、クライアント上に TCP/IP の PMX X-Server コンポーネントを導入する必要があります。

Windows NT または Windows 95 クライアントの要件

ハードウェア要件

- 486 プロセッサ (またはそれ以上)
- 26 MB RAM
- 50 MB 以上の空き容量をもつハード・ディスク

ソフトウェア要件

- Microsoft Windows NT バージョン 3.51 または Windows 95
- VisualAge for Basic を「DB2 サポート」オプション付きで導入するのであれば、NetBIOS か TCP/IP コミュニケーションを使った DB2 SDK/Windows バージョン 2.1 かそれ以降も導入する必要があります。DB2 通信の要件については、以下を参照してください。http://www.software.ibm.com/data/db2/db2v2.html

- Windows NT または Windows 95 クライアントを AIX サーバーに接続して、VisualAge for Basic リモート・デバッグ機能を使って AIX サーバー上のストアード・プロシージャおよびユーザー定義関数をデバッグする場合、クライアント上に PC X-Server 製品も導入する必要があります。

ストアード・プロシージャ VBX および OCX の要件

ハードウェア要件

- 486 プロセッサ (またはそれ以上)
- 16 MB RAM
- 2 MB 以上の空き容量をもつハード・ディスク

ソフトウェア要件

- VisualAge for Basic ストアード・プロシージャ VBX:
- Microsoft Windows バージョン 3.1
- Microsoft Visual Basic** バージョン 3.0 (英語版)
- VisualAge for Basic ストアード・プロシージャ OCX:
- Microsoft Windows NT バージョン 3.51 または Windows 95
- Microsoft Visual Basic バージョン 4.0
- NetBIOS または TCP/IP を使った、DB2 SDK/Windows バージョン 2.1 またはそれ以降。DB2 通信の要件については、以下を参照してください。http://www.software.ibm.com/data/db2/db2v2.html (英語版の情報のため、必ずしも日本語版に適用しない場合があります。)
- Windows クライアントを AIX サーバーに接続して、VisualAge for Basic リモート・デバッグ機能を使って AIX サーバー上のストアード・プロシージャおよびユーザー定義関数をデバッグする場合、PC X-Server 製品も導入する必要があります。

OS/2 サーバーの要件

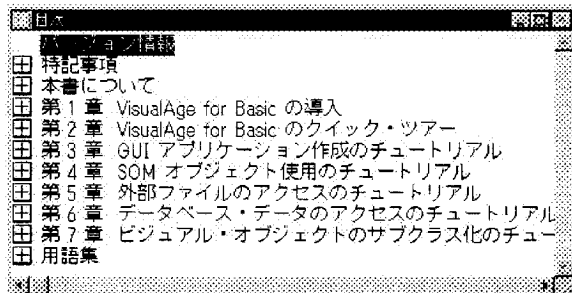
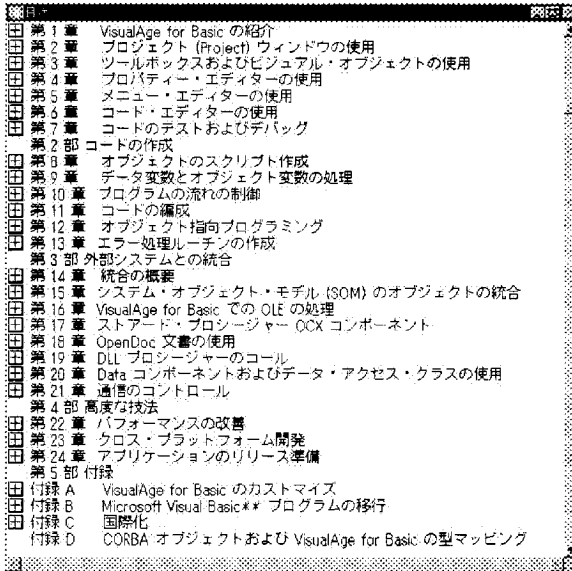
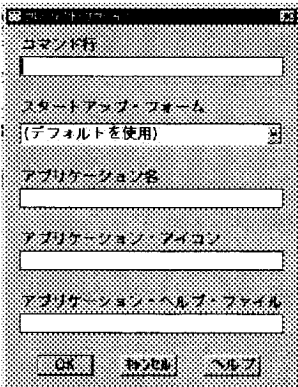
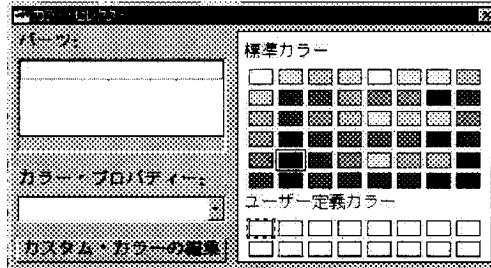
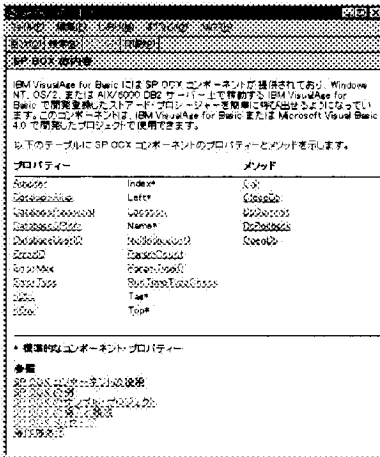
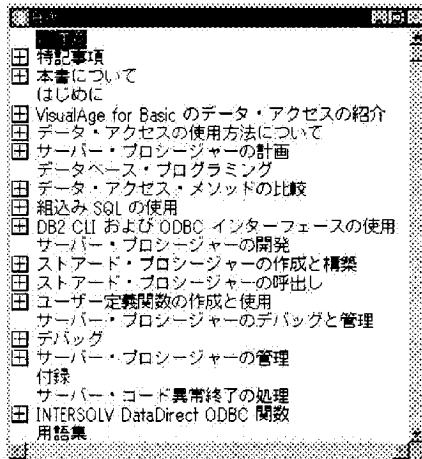
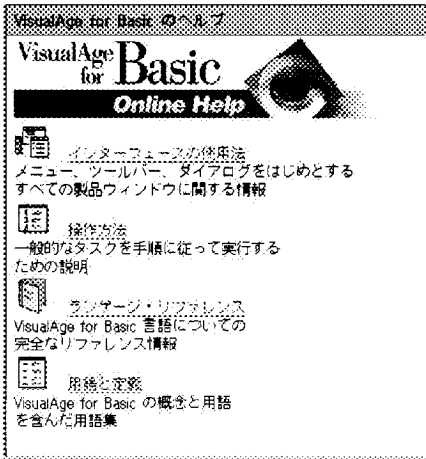
ハードウェア要件

- 486 プロセッサ (またはそれ以上)
- 26 MB RAM
- 13 MB 以上の空き容量をもつハード・ディスク

ソフトウェア要件

- OS/2 バージョン 2.0, 2.11, 3.0 (またはそれ以上) (バージョン 2.0 の場合は CSD 6055 またはそれ以降を含む必要がある。)
- NetBIOS または TCP/IP 通信を使った DB2 (OS/2 版) バージョン 2.1 またはそれ以降。DB2 通信の要件については、以下を参照してください。http://www.software.ibm.com/data/db2/db2v2.html (英語版の情報のため、必ずしも日本語版に適用しない場合があります。)

Visual Basic 部会



Windows NT サーバーの要件

ハードウェア要件

- 486 プロセッサ (またはそれ以上)
- 26 MB RAM
- 13 MB 以上の空き容量をもつハード・ディスク

ソフトウェア要件

- Microsoft Windows NT バージョン 3.51
- NetBIOS または TCP/IP 通信を使った DB2 (Windows NT 版) バージョン 2.1 またはそれ以降。DB2 通信の要件については、以下を参照してください。 <http://www.software.ibm.com/data/db2/db2v2.html> (英語版の情報のため、必ずしも日本語版に適用しない場合があります。)

AIX サーバーの要件

ハードウェア要件

- 530 RISC プロセッサ (またはそれ以上)
- 40 MB 以上の空き容量をもつハード・ディスク

ソフトウェア要件

- AIX バージョン 3.25 または 4.15
- TCP/IP 通信を使った DB2 (AIX 版) バージョン 2.1 またはそれ以降。DB2 通信の要件については、以下を参照してください。 <http://www.software.ibm.com/data/db2/db2v2.html> (英語版の情報のため、必ずしも日本語版に適用しない場合があります。)

コミュニケーション・コントロール ソフトウェアの要件

5 つある VisualAge for Basic コミュニケーション・コントロール (APPC, ASYNC, EHLPLI, NetBIOS, または TCP/IP) のいずれかを VisualAge for Basic クライアントと共に使用する場合は、以下にリストしたソフトウェアを適切なコミュニケーション・コントロールとオペレーティング・システムの下に導入する必要があります。

APPC コミュニケーション・コントロールの要件

- OS/2 クライアント: コミュニケーション・マネージャ (OS/2 版) バージョン 1.1
- Windows NT または Windows 95 クライアント: SNA サーバー/クライアントの場合、Windows NT サーバー バージョン 3.51 の Microsoft SNA サーバー バージョン 2.11 との接続

ASYNC コミュニケーション・コントロールの要件

- 他にソフトウェアは必要なし

EHLPLI コミュニケーション・コントロールの要件

- OS/2 クライアント: コミュニケーション・マネージャ/2 バージョン 1.1 またはパーソナル・コミュニケーション 5250 および 3270 (OS/2 版) バージョン 4.0 (またはそれ以上)
- Windows NT または Windows 95 クライアント: パーソナル・コミュニケーション 5250 および 3270 (Windows 95 版) バージョン 4.1

NetBIOS コミュニケーション・コントロールの要件

- OS/2 Warp クライアント: NetBIOS と、OS/2 LAN サーバー/リクエスター バージョン 4.0 OS/2 Warp サーバー バージョン 4 Warp Connect のいずれか
- Windows NT または Windows 95 クライアント: 他にソフトウェアは必要なし

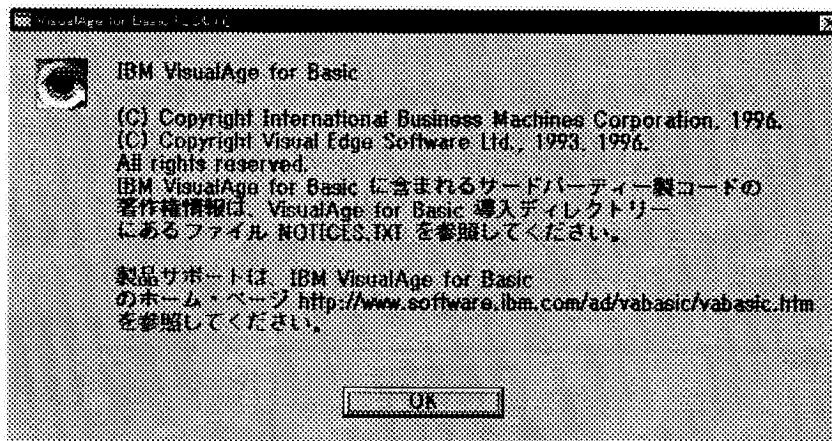
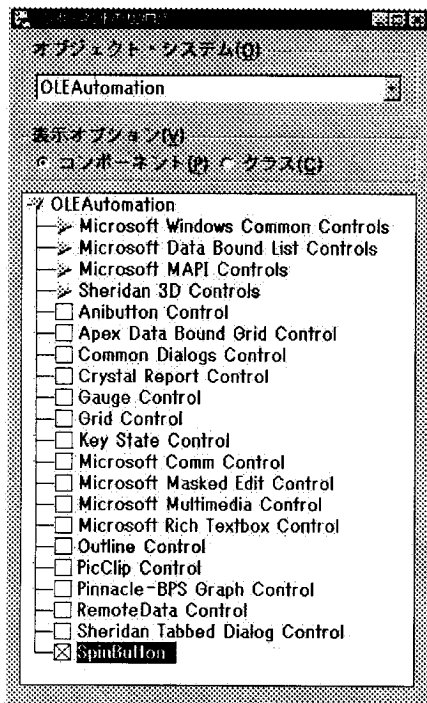
TCP/IP コミュニケーション・コントロールの要件

- OS/2 Warp クライアント: TCP/IP (OS/2 版) バージョン 2.0
- Warp Connect クライアント: TCP/IP バージョン 3.0 (Warp Connect と共に出荷)
- Windows NT または Windows 95 クライアント: 他にソフトウェアは必要なし

(IBM VisualAge for Basic v.1

ヘルプより)

Visual Basic 部会



このように、ほとんどコードが一緒のためどちらへのリンクも簡単に出来るのです。これは便利と今は思っているのですが使いこなしてからの結果いかんですね。

近々には皆さんにご覧頂けるプログラムを作成したいですねでは又の機会にお知らせします。

インターネット部会

部長 若井征夫

1997年2月23日午後1時より午後5時まで開催

場所 京都マイコン研究会事務局（増田宅）

内容 京都マイコン研究会ホームページ作成に係る基本構成とサンプルHTMLのプレゼン。

参加者 吉川雅啓／若林 実／河原友三郎／岩井宏安／増田則雄／若井征夫

前回の皆さんの意見や表示レイアウト。また、階層の問題をふまえて増田氏にジャバ言語を挿入したサンプルHTMLを作成していただきました。

今回のサンプルHTML基本コンセプトには、なるべくスクロールしないで見られる作り。画像はインデックス画面ではなるべく貼り付けない。統一した階層メニュー画面。を基に1画面を見ると大きくロゴ、リンク先、リターンボタンになっていることがお解り頂けたでしょう。

このコンセプトにより、すっきりとした画面のイメージを得られたと思います。ただ、もう少し統一して階層を少なくする考えです。これも増田氏に依頼しました。

次回例会では、骨子となるリンク先やキャッチコピー、ロゴの作成、アイコンの作成、ジャバ言語、内容情報、情報担当者、担当部門、その他沢山の問題が山積みしています。皆さん生きがいがある作業が山積みで期待しててください。そして、サンプルHTMLを見ていただき協議していただきたいと思います。

この私たちが掲げるホームページ全体が皆さんに現在会報として送付していただいている紙面の替わりになりインターネットを通じて多くの人にも参加していただきたいと願っています。

INS64 (ISDN) 設置とインターネット接続の体験

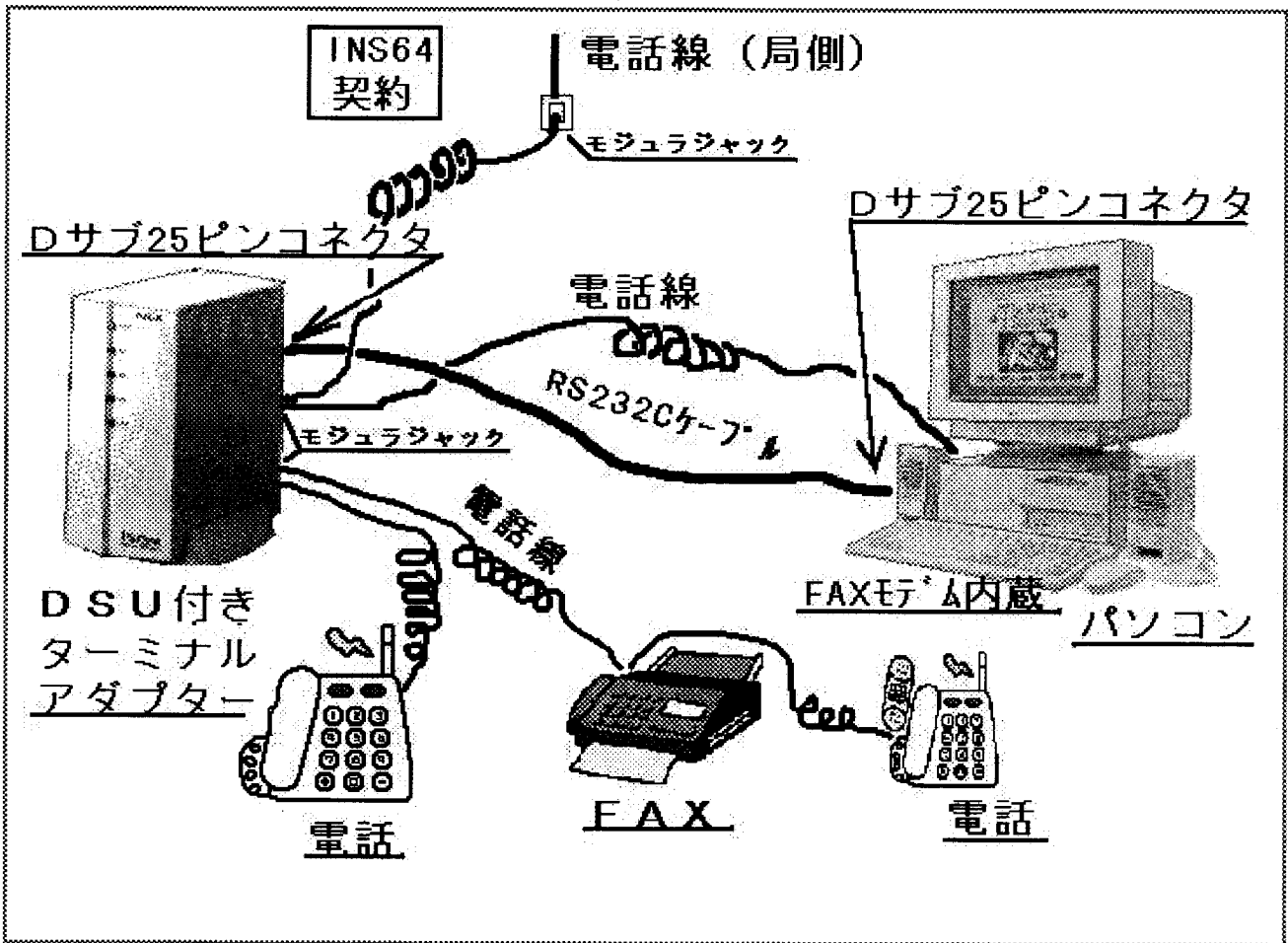
(tomopy)

パソコンにISDNを接続した当会の初乗りの溝口さんへ体験談の記事をメールでお願いしたのですが返事が貰えず、小生の友人がINS64と日電PC9821v20を購入して、そのセッティングを行った体験をレポートします。

接続図のようにパソコン、ファックス（以下、FAXと記す）、電話2台、28.8KBのモデム（PC9821V20に標準装備）を接続した。

アナログ電話回線をデジタル回線切替え連絡が電話局から予告があり、その折りにダイヤルインとグローバル着信をするために電話番号増設を申し込む、折り返し既設番号に近い上位の番号を知らせて呉れた。切替え当日は技術者2名と試験器を2台持参した。電話回線に試験器を繋ぎ、それを使って局側と通信をしながら、約20分ほどで切り替わる。技術者の立ち会いのもとにターミナルアダプタ（以下、TAと記す）へ電話線のモジュラー・ジャックを接続する。

そこで、電話機の受話器を上げて耳へあてて発信音を確認する。このとき、発信音が出ず、一瞬、ドッキとしたが、すぐに、説明書の記載を思い出して極性を切替えたら、いつもの発信音が出た。これで、工事立ち会いも完了で技術者から工事確認完了のサイン要求があつて終了した。いとも簡単であつてなかつた。でも、それからが、大変であつた。



図のターミナル・アダプターを購入すると、Windows95にインストールしてパソコンからターミナル・アダプターを外部から設定できるユーティリティ・ソフトが同梱されている。それを使用してターミナル・アダプターに接続できる3つのアナログ・ポートに電話番号をユーティリティ・ソフトを使って割り付ける。ただし、INS64の契約では電話回線一本につき、電話番号を2つ設けられる。図の例で説明すると既存の番号をFAX機に、新番号を電話単独とパソコン内蔵のFAXモデムに割り当てた。図では電話がFAX機に付属分を入れて、3台となる。さらにパソコン内蔵のFAXモデムに電話機を接続すると4台になる。

契約時に電話番号を増やしたから、ダイヤルイン機能が付き、片方の電話番号が話中であると他の電話へ自動で振り替わる。ここで、パソコンのWindows95のFAX機能を自動受信状態にして置かないと受けて呉れないのである。環境の状態から、折角の機能を殺すことになり、先のユーティリティ・ソフトで設定してグローバル着信を中止し、ダイヤルイン機能も使わない状態にした。

使用したターミナル・アダプターには、AT7フェイス・コマンドがあり、データ・ポートへRS232Cのケーブルを接続し、Windows95のインターネットのシリアル・ポート①へ設定してアクセスができた。最新のPc9821には、高速のシリアル・ポートが2つ設けられている。残りのポートは現在、何も使用していない。

一方、ターミナル・アダプターのアナログ・ポートには、電話やFAX機、パソコン内蔵のFAXモデムを接続した。そのFAXモデムはパソコンのポート③に接続されて、パソコン通信とWindows95のFAX送信に使える。(溝口さんがINS64を使用始めたときに、ターミナル・アダプタのデータ・ポートからFAXを送信して失敗したそうである。多分、FAX機能が無いためである)

う。将来の新製品には搭載されるであろう)

先にも説明したが、インターネットへの接続はRS232Cケーブルの片端をパソコンのシリアル・ポートに、反対側の片端をターミナル・アダプターのデータ・ポートへ接続した回線を使用して、プロバイダのISDNへアクセスし、インターネットへ入るとあちこちのホーム・ページの表示が何と速いことで、ストレスが溜らない。

使用したターミナル・アダプターは、複数の電話同志でも話せる機能が付加されているから、居宅の離れや二階などに電話を置いて相互に話ができる。

さらに、このターミナル・アダプターに内蔵している動作プログラムのメモリ内容を発売元からダウンロードして書き替えるフラッシュ・メモリがあり、新機能が付加されるごとに動作プログラムを更新できる。

以上のようなセッティングを体験したのです。

Tomoppy 雑記帳 (18回)

(tomoppy)

前回の17回目の記事は参考になりましたでしょうか。ご意見を待っています。

1. 最新のPC9821シリーズ

バリュースタの最上位200Mhz ミニタワー機とX・メートの133Mhz ミニタワー機をセッティングする機会があり、注意を引きつけた点を知らせる。

イ) HDDの発生音の違い

200Mhz ミニタワー機 IDE-HDD 3GB IBM製 低い音のシャカシャカ

133Mhz ミニタワー機 IDE-HDD 1.6GB ウェスタン製 高い音でガシャガシャ

133Mhz ミニタワー機へ増設用にイオ・データから購入したIDE-HDD 3GBもIBM製であった。

2. 日電PC9821へ5インチFDDを増設

133Mhz ミニタワー機へファイルベイ型の5インチFDDを取り付けた。化粧ケースなしのFDDであるが、重さが非常に軽く昔の一割くらいと思われる。取り付けは配線、フォーマットの試運転含めて約1時間で完了した。このドライブも運転音は聞こえないくらい静かであった。

3. 3.5インチFDの障害

最近、頻繁に3.5インチFDがクラッシュして困っている。フォーマットではエラーが出ず、大きなファイルを書き込んで読み出すとリードできない。ディスクスキャンを行って検査するとエラーのセクタを見つけて、修復もできないDISKが多く出た。どうも、長期の保存中にカビなどが発生して障害が出ているようだ。友人もバージンのFDでリード・ライトでエラー出て困っている。そして、マシンに関係なくエラーが生じ、品質が低下していると言っている。皆さん、如何ですか。

4. 光磁気(MO)DISKの障害

とうとう、4年前に購入したMO DISK がクラッシュした。上のFDと似たような障害である。高々、128MBの大きさであるが、これに多数のファイルをセーブして故障かどうか検査するのは、時間と辛抱が必要である。簡単に調べる方法がないだろうか。ご一報をお願いしたい。

128MBのMO DISK の店頭に並んでいる数も230MBが多数を閉めるようになり、そろそろ買い替え時期かなと思うようになった。

以上。

(97年運営企画)

会長 園 口 佳 昭

< 変化と進化 >

たまごっち、1日1歳の成長、えさをやり、遊んでやり、うんこをすると流してやり、病気になると注射をしてやる、遊んでやらないと満足度がさがる。病気をそのままにすると死んでしまう。夜店でひよこを買った状態が手のひらに載るゲームウオッチで繰り広げられる。

お金を出せば買える、しかし育てるのには成長のための手順が必要です。手順をあやまるとうまく育たない。今のパソコンがそれに当てはまります。テレビの宣伝はペンティアムMMX対応、音楽も映像もOK、すごい進化である。この進化にペンティアム150Mは安売りに在庫処分しないと、生鮮野菜のように日を追うごとに腐り売れなくなってしまう、恐ろしい変化である。

プログラムはパソコンの能力と共に進化をつづけOFFICE95から今年3月には97になる、ペンティアムMMXでないとスムーズな処理は望めないであろう。画像処理、文字加工とソフトも変化が激しい。

この変化と進化の中で97年京都マイコン研究会の年間方針案を提案することとなると大変難しい。解決のヒントはタマゴッチにあると思う、成長するには基本を押さえること、変化を受け止め成長に対応したカリキュラムを作る。

京都マイコン研究会として個人の成長や要望に対応したカリキュラムを作る。内容は成長プログラムとしてパソコン、要求内容(なにをしたいかどの程度の理解したいか)、時間配分をCPUに対応した8086(DOS)、486(Win3.1)、ペンティアム(Win95)、MMXペンティアム(Win97)別にソフトバージョン、ハード容量などを決め、作業能率の低下のない最適システムでの利用方の研究はいかがでしょうか。

(tomoppy)

1997年3、4月開催
エレクトロニクス関連学協会のカレンダー
(関西地区のみ)

開催日 3/17-3/19
■日本音響学会平成9年度春季研究発表会
●同志社大学工学部、京都府綴喜郡田辺町多々羅都谷1-3
★日本音響学会、
〒151、東京都渋谷区代々木2-7-7 池田ビル、
TEL(03)3379-1200、FAX(03)3379-1456

開催日 3/24-3/27
■1997年電子情報通信学会総合大会
●関西大学 千里山キャンパス、大阪府吹田市山手町3-35
★電子情報通信学会 集会事業部、
〒105、東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館、
TEL(03)3433-6691、FAX(03)3433-6659

開催日 3/26-3/28

■電気学会平成9年全国大会

●同志社大学 田辺キャンパス、京都府綴喜郡田辺町多々羅都谷1-3

★電気学会 全国大会担当、
〒100、東京都千代田区有楽町1-12-1 新有楽町ビル、
TEL(03)3201-0983、FAX(03)3201-1983

開催日 4/19-4/25

■第20回ソフトウェア工学国際会議(ICSE-20)

●国立京都国際会館、京都府京都市左京区宝ヶ池

★石丸満枝、
〒108、東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル 情報処理学会、
TEL(03)5484-3535、FAX(03)5484-3534、
E-mail:ishimaru@ipsj.or.jp

※ 上記の会場ではメーカーの展示会も開いており、入場できます。予め、事務局へ問い合わせして下さい。
2月の例会で各種イベントを掲載希望がありましたので、その一回目です。皆さんからも情報を投稿下さい。

4月会報の募集

1. Windows95のDOSコマンドの解説

2月の例会でも話がありましたが、どなたか、Windows95のDOSコマンドについて解説する方を募集しております。4月の会報に特集したいと思います。

2. イン트라ネットって何ですか

解説者募集です。用語解説から実際使用について企業で実際使っておられて、その体験をやさしい説明でお願いしたい。